

埼玉学園大学・川口短期大学 機関リポジトリ

幼児英語教育における保護者の意識調査： 自由記述の調査から

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): children, KJ method, English activity 作成者: 五十嵐, 淳子 メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/1561

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



幼児英語教育における保護者の意識調査

— 自由記述の調査から —

Parents' Awareness in Early Childhood English Education Survey

From Free Description Questionnaire

五十嵐 淳 子

IGARASHI, Junko

本研究は、幼稚園と保育園に子どもを通園させている保護者を対象とし、保護者が幼児の英語教育に対してどのような思いがあるのかを明らかにすることを目的としたものである。子どもの英語活動の園の取り組みについては、多くの保護者が肯定的であることが明らかになった。しかし、少数ではあるが子どもの英語活動に対する否定的意見があることも現状として見られた。幼稚園と保育園における保護者の共通事項としては、外国人講師や英語に触れる経験を通して、異文化に触れてほしい、多様性の理解に繋げてほしいという思いがあることが挙げられることが明らかになった。

1. はじめに

英語教育において保護者を対象としたアンケート調査については、北篠（2005）が小学校及び中学校の保護者への意識調査で、小学校での英語教育について肯定的に捉えていることが示唆されている。また、就学前の英語教育に関する保護者を対象としたアンケート調査で、秀（2016）は保護者の早期英語教育への期待が高く、幼児の英語活動を肯定的に捉えている保護者が多いことを示している。松永・小松・ルーク（2009）は、幼稚園や保育園での英語教育の導入には保護者の関心が高いことを言及している。寺尾・鈴木・名須川・高橋（2010）は、保護者の英語教育への

関心が高く、英語活動への期待度が高いことを示唆している。

幼稚園や保育園における就学前教育の英語教育の現状としては、保護者からの期待や要望に応じて英語活動を取り入れている園も多く見られるが、保護者を対象とした研究が少ない現状がある。また、先行研究では、幼稚園や保育園での英語教育に対する意識調査に限定されており、家庭での英語教育の取り組みや保護者自身の英語使用の頻度や機会については明らかにされていないことがわかった。

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』では幼稚園と家庭との連携において、保護者が幼児期の教育に関する理解が深まる必要性を提唱しており、子どもの様子を伝えること

キーワード：子ども、KJ法、英語活動

Keywords : children, KJ method, English activity

や子育ての情報交換について言及している。厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』においても、保育園と家庭との連携の必要性が提唱されており、保育者と保護者の両輪で子どもの育ちを見守ることの重要性が示唆されている。しかし、幼稚園や保育園の英語活動においては、保育時間外の英語教室等の実施、保育とは別の枠組みでの活動の一部として捉えている園や外部の英語講師が担当している園が多い背景から、「英語」という枠に位置付けられ、幼児教育や保育から切り離されていることや家庭と園の連携や協力が図れていないことが否めない。

そこで、幼稚園と保育園に子どもを通園させている保護者を対象とし、保護者が幼児の英語教育に対してどのような思いがあるのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究では、幼稚園及び保育園の保護者に対して質問紙調査を実施した。自由記述とし、子どもの英語教育について幼稚園や保育園の英語活動等について感じている事や思う事を記述できるようにした。調査は、幼稚園3園（茨城県2園、愛媛県1園）と保育園7園（東京都6園、神奈川県1園）、計10園の保護者を対象とした。調査方法は、自記筆アンケート調査（配票調査法）であり、506名（回収率88.2%）の有効回答を得た。調査期間は2019年3月上旬～2020年3月上旬である。対象園及び対象者には文章と口頭にて研究の主旨を説明した。回答があった自由記述については、川喜田（1967）が発案したKJ法を使用して、幼稚園の保護者と保育園の保護者のそれぞれに分類して整理した。

3. 倫理的配慮

調査目的、調査内容、データの処理方法、調査結果の使用およびプライバシーの保護については、口頭にて説明するとともに書面に明記した。本調査においては、事前に本研究に基づく趣旨説明を行い、さらに、本調査への参加は自由であり、回答によって一切の不利益を被ることがないことを説明した。本研究に必要な情報開示、資料提示について協力の同意を得ている。以上の内容に理解を得られた者に対して調査を実施した。

4. 保護者の質問紙調査の結果

4.1 対象者の基本特性

対象者は幼稚園及び保育園の子どもの保護者506名で、幼稚園の子どもの保護者は336名（66.4%）、保育園の子どもの保護者は170名（33.6%）で図1のとおりである。

対象者の性別については、図2に示すように男性18名（3.6%）、女性488名（96.4%）であり、圧倒的に女性の割合が多い現状であることが確認できた。

対象者の年齢は20代43人（8.5%）、30代330人（65.2%）、40代132人（26.1%）、その他1人（0.2%）で図3のとおりである。

子どもの年齢については、0歳児8人（1.6%）、1歳児29人（5.7%）、2歳児40人（7.9%）、3歳児120人（23.7%）、4歳児129人（25.5%）、5歳児134人（26.5%）、6歳児46人（8.9%）で図4のとおりである。

4.2 子どもの英語教育に対する意見

図5は対象者の子どもの英語教育に対する自由記述を表したグラフである。無記入者は324人（64.2%）であり、意見を挙げたのは

幼児英語教育における保護者の意識調査

幼稚園と保育園の保護者の割合

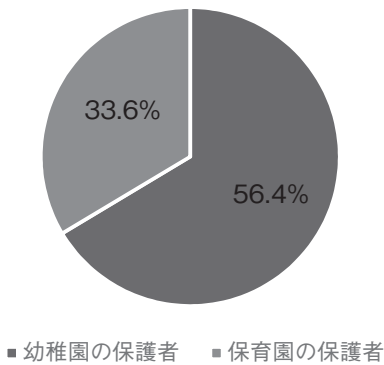


図1 幼稚園と保育園の保護者の割合のグラフ

保護者の男女の割合

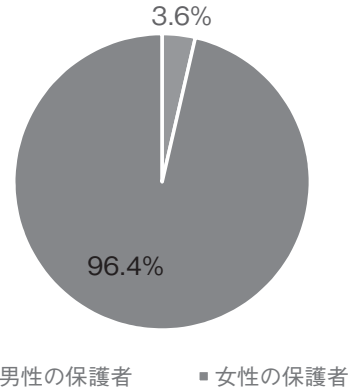


図2 保護者の男女の割合のグラフ

保護者の年代別の割合

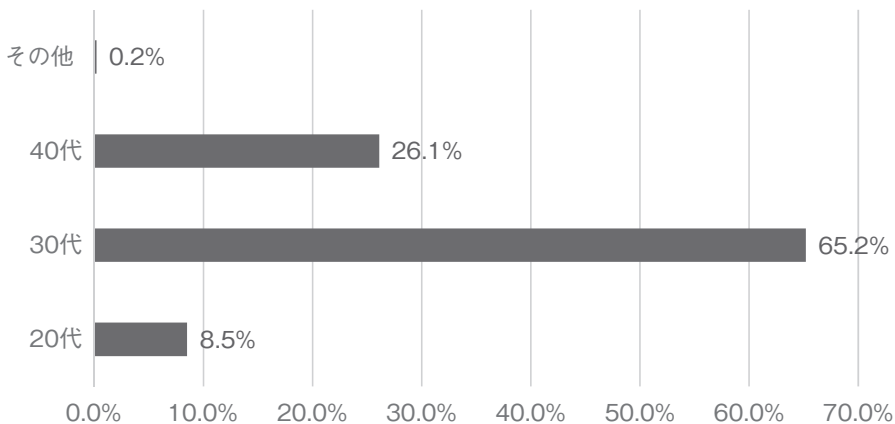


図3 保護者の年代別の割合

181人（35.8%）であった。幼稚園の保護者は336人で無回答は241人（71.4%）、肯定71人（21.1%）、否定24人（7.1%）であった。保育園の保護者は170人中84人（49.4%）、77人（45.2%）、9人（5.2%）であった。

自由記述については、川喜田（1967）が提案したKJ法を用いて分析した。意味内容が同類と見なすことができる記述を抽出し、付箋紙データを集めてグルーピングを行い、グループの内容を表現するサブカテゴリー名を

付けた。さらにサブカテゴリーを収集し、再度上位のカテゴリー名を付けて整理し文章化した。なお、調査の信頼性及び妥当性を確保するために、研究協力者である保育者養成校教員2名との検討を重ね、判断の異なる場合には討議を経て決定した。

4.3 幼稚園の保護者の自由記述

自由記述に記載した幼稚園の保護者181人のうち、幼稚園の保護者の自由記述は95件で

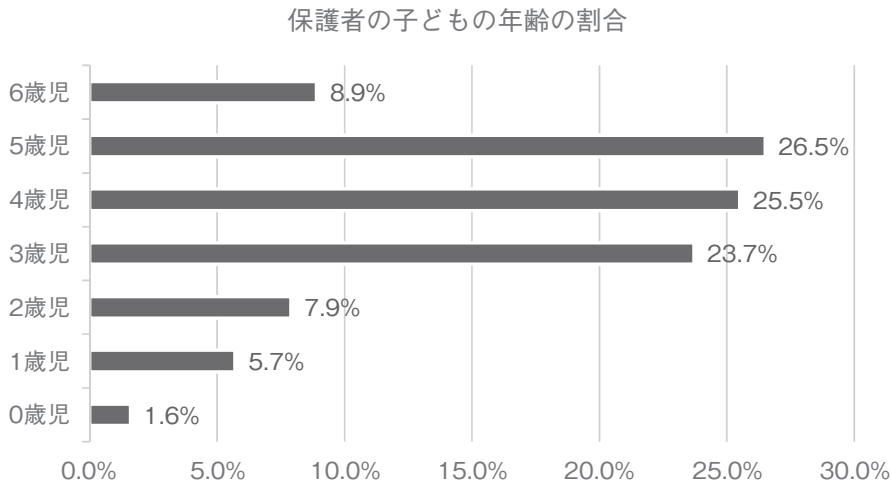


図4 保護者の子どもの年齢の割合のグラフ

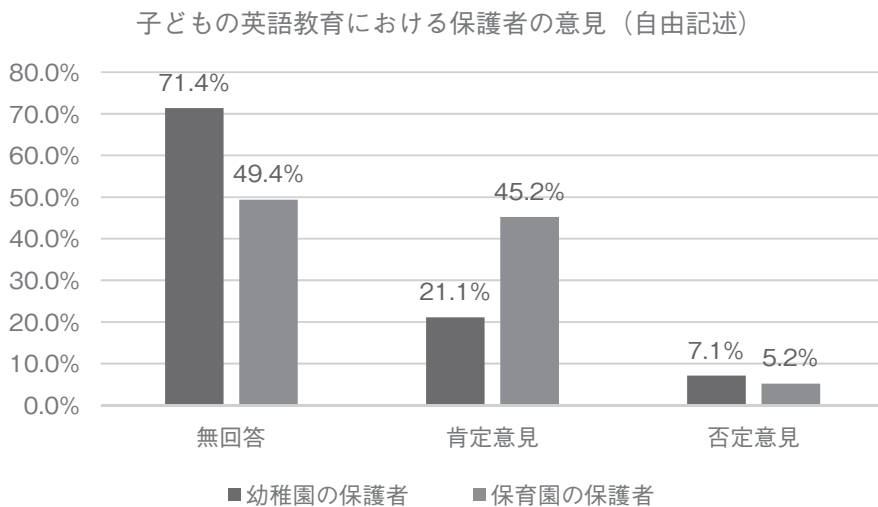


図5 子どもの英語教育における保護者の意見

ある。幼稚園の保護者の自由記述において、子どもの英語教育に対する自由記述をKJ法で整理し、分析した結果、「英語の必要性」、「幼稚園への要望」、「日本語」、「習得状況」、「コミュニケーション」、「疑問点」、「不必要」の合計7カテゴリが生成された。表1は幼稚園の保護者による子どもの英語教育に対する意見を自由記述数の上位順にまとめたものである。

「英語の必要性」のカテゴリには、「良い」「楽しい」「英語で遊ぶ」「親が苦手」の4つにサブカテゴリ化した。「良い」については、幼稚園や小さい頃から英語を行うことに賛成している意見が多くあげられた。「楽しい」については、「小さいうちは楽しむことが一番だと思います。」「今、楽しく英語活動に参加しているので、本人が楽しく学べていれば

幼児英語教育における保護者の意識調査

満足です。」等の意見があり、楽しく英語に触れることに満足している様子や英語は楽しくしてほしいという気持ちが読み取れた。「英語で遊ぶ」については、「遊びの中で英語を学べると良いと思います。」等の意見があり、英語の遊びについては、「歌」「リトミック」「絵本」「手遊び」「ゲーム」「ハロウィン等の行事」があげられた。「親が苦手」については、「自分は英語が話せないので世界で通用できるくらいの知識はあってほしい。」等の意見があり、保護者が英語を苦手と感じていること

から、子どもに英語力をつけさせてあげたいという思いや期待感があることが読み取れた。

「幼稚園への要望」については、「保育で英語に触れる」「英会話」「英語母語話者講師」「強制」の4つのサブカテゴリーに分類した。「保育で英語に触れる」については、「通常保育の中で英語に触れる機会があると良いと思う。」等の意見があげられ、保育で英語に触れる機会を作ってほしいという要望があることがうかがえた。「英会話」については、「英語の勉強という感じか、小学校や中学校の義務教育

表1 幼稚園の保護者による子どもの英語教育に対する意見

カテゴリー	サブカテゴリー	文章記述例
英語の必要性 (37件)	良い (17件)	小さい頃から英語に触れることはとても素晴らしいと思います。
	楽しい (8件)	小さいうちは楽しめることが一番だと思います。
	英語で遊ぶ (5件)	遊びの中で英語が学べると良いと思います。
	親が苦手 (7件)	自分は英語が話せないので世界で通用できるくらいの知識はあってほしい。
幼稚園への要望 (23件)	保育で英語に触れる (10件)	通常保育の中で英語に触れる機会があると良いと思う。
	英会話 (4件)	英語の勉強という感じか、小学校や中学校の義務教育でやっているイメージなのでもっと英会話に近くしてほしい。
	英語母語話者講師 (7件)	ネイティブの先生が話す標準な発音で統一していただくと混乱を招くことはないかと思っています。
	強制 (2件)	幼稚園では週一回英語教室があるが習い事としてなので、月謝や入会金があり躊躇してしまうので、園から強制的に取り入れてもらうと教育費として考えられるので諦めがつくため助かる。
日本語 (10件)	日本語が大切 (10件)	まずは日本語の力をしっかりつけたうえで英語を学んだ方が良く聞いたことがあるので、幼稚園では正しい日本語を学んでほしいと思っています。
効果 (4件)	家庭での英語の状況 (4件)	家でも英語で話すようになってきた。
コミュニケーション (7件)	経験 (3件)	自分が経験できなかった様々な世界を経験してほしい。
	外国人 (4件)	外国の人と触れ合う機会が増えると良い。
疑問点 (7件)	わからない (4件)	子どもには英語力をつけてあげたいけど、どのようにすれば良いのかわからない
	悩み (3件)	耳を鍛えるには小さい頃が良い気がしてスタート時期を悩む。
不必要 (7件)	必要なし (7件)	お遊び程度の英語ならやる特にやらなくて良いと思います。

でやっているイメージなのでもっと英会話に近くしてほしい。」の意見の他、「英会話をやってほしい」、「オールイングリッシュでやってほしい」「英語で話す時間をとってほしい」等の意見が上がり、保護者が子どもには英語を話せるようになってほしいという願望があると考えられる。「英語母語話者講師」については、「ネイティブの先生が話す標準な発音で統一していただけると混乱を招くことはないかと思います。」等の意見が上がり、小さな頃は耳が良いので「英語母語話者講師」の発音に触れてほしいと思っていることが読み取れた。「強制」のサブカテゴリーについては、幼稚園の保護者の意見の特徴の一つであると考えられる。なぜならば、幼稚園の英語活動は保育時間ではなく、保育終了後に幼児教室の一つとして保育料とは別に月謝が必要になるところもある。そのため、英語活動を保育時間内に実施する形態で強制的に実施された方がよいという意見があげられたことがわかる。

「日本語」のグループについては、「英語より日本語を大切にしてほしい」「英語ではなく正しい日本語を身に付けてほしい」という意見があげられた。保護者は日本語の言葉を覚えている幼児には英語よりも先に日本語を覚えてほしいという気持ちがあることがわかった。

「効果」については、「家でも英語で話すようになってきた。」等の記述が見られ、子どもが幼稚園で触れた英語を家でも話したり、歌を歌ったりすることがわかった。

「コミュニケーション」のカテゴリーでは、「経験」と「外国人」の2つにサブカテゴリー化した。「経験」については、「自分が経験できなかった様々な世界を経験してほしい。」「英語を通して外国の文化に触れる経験をし

てほしい」等の意見があがった。「外国人」については、「外国の人と触れ合う機会が増えると良い。」等の意見が上がり、保護者は小さな頃は耳が良いので「外国人」の発音に触れてほしいと思っていることや外国人講師に英語活動が担当することで、外国人や英語に触れる経験を通して、異文化理解に繋がっていることも読み取れた。

「疑問点」については、「わからない」「悩み」の2つにサブカテゴリー化した。「わからない」「悩み」は類似性が見られ、「英語が必要だと思うが何歳で始めることが良いのかについて悩む」「幼稚園で英語を行ってほしいが、自宅で英語にどのように行うかどうかがわからない」等の意見があげられ、幼稚園での英語活動の必要性は感じておりながら、保護者が困惑していることがわかった。

「不必要」のグループは、「英語の必要性」の対立関係にあり、「幼稚園での英語は必要ない」等の意見が出た。幼稚園から英語に触れることについては賛成意見が多く出ている一方で幼稚園から英語を行う必要はないという反対意見もあがった。

4.4 保育園の保護者の自由記述

保育園の保護者において、子どもの英語教育に対する自由記述をKJ法で整理し、分析した結果、「英語の必要性」、「感謝」、「保育園への要望」、「効果」、「コミュニケーション」、「日本語」、「疑問点」の合計7カテゴリーが生成された。表2は保育園の保護者による子どもの英語教育に対する意見を自由記述数の上位順にまとめたものである。

「英語の必要性」については、「良い」「楽しい」「親が苦手」の3つのサブカテゴリー化した。「良い」については、「将来英語力は重

表2 保育園の保護者による子どもの英語教育に対する意見

カテゴリー	サブカテゴリー	文章記述例
英語の必要性(25件)	良い (15件)	将来英語力は重要な課題になると思うので小さい頃から身近なところにある環境で育てられるのはとても良いことだと思う。
	楽しい (3件)	小さい時から友達と一緒に英語に触れたら楽しく学べると思う
	親が苦手 (7件)	親があまり英語は得意ではないため保育園で少しでも取り入れてくださると助かります。
感謝 (15件)	ありがたい (15件)	保育園で週1回の英語の時間をとっていただき感謝しています。
効果 (15件)	家庭での英語の状況(15件)	家でも園で習った歌を歌っています。
保育園への要望 (13件)	英語活動の時間を増やす (6件)	園でもっと英語の時間をとってもらえたら嬉しいです。
	英語活動の方法 (5件)	英語でのリトミックや運動などができると体の部位や動作についての語彙が増えると思います。
	英語母語話者講師 (2件)	ネイティブの先生だと小さい頃から外国の方にも抵抗がなくなつてのちのち良いと感じています。
コミュニケーション (12件)	異文化理解 (5件)	勉強としてではなく、日本語とは異なる言語、文化があるということを理解してほしい。
	外国人 (7件)	外国の子どもやハーフの子どもが増えているのでコミュニケーションをとる方法として英語を身に付けてほしいです。
日本語 (4件)	日本語が大切 (4件)	まずは日本語をしっかり獲得してほしいです。
疑問点 (2件)	知りたい (2件)	英語にとっても興味があるので自宅でも子どもとできることがあれば知りたいと思っています。

要な課題になると思うので小さい頃から身近なところにある環境で育てられるのはとても良いことだと思う。」「小さい頃から英語に触れることは良い」、「保育園で英語を行うことは良い」等の意見があがり、保育園の英語活動に対しては肯定的な意見が多くあげられた。

「楽しい」については、「小さい時から友達と一緒に英語に触れたら楽しく学べると思う。」「英語が楽しいと少しでも思ってくれると良いきっかけになるので英語教育があるのは嬉しい。」等の意見があがった。「親が苦手」については、「親があまり英語は得意ではないため保育園で少しでも取り入れてくださると助かります。」等の意見があがった。保育園では、「英語の必要性」の対立関係にある「不

必要」のカテゴリーは見当たらなかった。

「感謝」については、保育園の保護者の特徴としては、保育園で英語活動を行うことに対しての「感謝」の気持ちが強く現れていることがあげられる。「保育園で英語をやってもらえることはありがたい」との記述が多く見られたが、このような感謝の気持ちを表す記述は幼稚園の保護者からは一切見られなかったので、保育園の保護者の特徴と言えるのではないかと考える。

「保育園への要望」については、「英語活動の時間を増やす」、「英語活動の方法」、「ネイティブ講師」の3つにカテゴリー化した。保育園への要望としては、「英語活動の時間を増やす」については、「英語をもっとやってほし

い」という意見が多くあげられた。「英語活動の方法」については、「英語のリトミックをやってほしい」、「英語の絵本の読み聞かせをしてほしい」、「英語の発表会をしてほしい」、「フォニックスをやってほしい」「動機づけを教えてほしい」等の具体的な意見があがった。「ネイティブ講師」については、「外国人の保育士を常駐して英語環境を整えてほしい」等という具体的な意見があげられた。加えて、保護者自身が英語を「苦手」と捉えているために、保育園の英語活動に期待しており、保護者の「要望」に繋がっていると考えられる。

「効果」については、「英語を使うことに驚いている」、「子どもの発音が良い」、「保育園で覚えた英語の歌を家でも歌っている」、「保育園で習ってきた英語の挨拶や数を家でも言う」、「英語で色や動物の名前を言う」等の意見があげられ、保育園で英語の習得効果を実感していることが明らかになった。保育園の英語活動は「効果」があり、「良い」ことであり「感謝」しているという繋がりが見られ、相関関係があることが明らかになった。

「コミュニケーション」については、「異文化理解」と「外国人」の2つにサブカテゴリー化した。「異文化理解」、「外国人」については相関関係が見られ、外国人や外国語の異文化に触れてほしい、多様性の理解に繋げてほしいという思いがあることや外国人の先生に教えてもらいたいと思っていることがわかった。

「日本語」については、英語ではなく「日本語」が大切であるとの意見があり、保育園の英語活動に対して肯定的意見の「良い」とは反対関係にあり、否定的意見があげられた。しかし、保育園の保護者からは幼稚園の保護者の記述に見られた「必要ない」という言葉

は見られず、英語活動を必要ないとは思っていないことが明らかになった。

「疑問点」については、保育園の英語活動に対しての否定的な意見ではなく、「子どもと一緒に自宅でできる英語がわからなくて悩む」、「保育園だけで英語をやっても無駄ではないかと悩む」等の意見であり、保育園だけでなく自宅での英語の取り入れ方について知りたいという意見や英語に触れる経験が自宅ではないことに悩んでいることが読み取れた。

5. おわりに

本研究では、子どもの英語活動の園の取り組みについては、多くの保護者が肯定的であることが明らかになった。しかし、少数ではあるが子どもの英語活動に対する否定的意見があることも現状として明らかになった。幼稚園と保育園における保護者の共通事項としては、外国人講師や英語に触れる経験を通して、異文化に触れてほしい、多様性の理解に繋げてほしいという思いがあることが挙げられることが明らかになった。

幼稚園における保護者の特徴としては、「強制」のグループがサブカテゴリー化されたことが挙げられる。幼稚園は保育園より保育時間が短いため、英語活動は保育時間ではなく、保育終了後に幼児教室の一つとして保育料とは別に費用が発生するため、英語活動を保育時間内に実施する形態で強制的に実施された方が良いという意見が出ており、幼稚園と保育園の保育時間の相違が要因として考えられる。また、幼稚園の英語活動に対しては賛成意見が多くあった一方で幼稚園から英語を行う必要はないという反対意見もあがった。

保育園における保護者の特徴としては、英語活動に対しては肯定的な意見が多く、「英語

の必要性」の対立関係にある「不必要」はカテゴリー化されることがなかったことが挙げられる。保育園は保育時間が幼稚園より長いため、また、もう一つの大きな特徴として、英語活動に対して保護者が園に対する「感謝」の気持ちが強く現れていることがあげられる。さらに、保育園で英語活動に効果を感じていることが明らかになった。

しかし、保護者の質問紙調査が地域を限定していることから客観性や信頼性に乏しいことは否めない。個人情報保護の観点からも園では内容に関わらず、特に保護者にアンケートを実施すること自体に懸念が大きいことから保護者への調査は困難を要した。しかし、就学前教育における英語教育のニーズがある状況においては本調査に意義があったと感じている。

今後は、保護者に園での英語活動の様子や英語活動への理解を求めることが必要である。子どもの英語教育に関する適切な知識や情報を保護者へ提供していく機会を図ることが急務であることを提言したい。そして、保護者向けの子どもの英語教育に関する情報提供や研修内容における研究に取り組み、家庭において保護者が子どもと一緒に取り組める英語活動を検討していきたい。

引用文献

- 川喜田二郎 (1967).『発想法改版』中央公論新社.
 川喜田二郎 (1970).『続・発想法—KJ法の展開と応用—』中央公論新社.
 厚生労働省 (2018).『保育所保育指針解説書』フレーベル館.
 秀真一郎 (2016).「幼児教育現場における英語活動のあり方—担当保育者における活動実施の重要性とその方法—」『吉備国際大学研究紀要』第

- 26号, 1-12.
 寺尾裕子・鈴木正敏・名須川智子・高橋美由紀 (2010).「幼稚園での英語活動の試みによる園児の学びと教員の学び—保護者と教員への調査に基づいて—」『学校教育学研究』第22巻, 1-12.
 船田まなみ・執行智子・カレイラ松崎順子 (2019).「保育士養成課程における学生の自主的な学びに関する実践報告:子どもの英語のうたを用いた活動」『東京未来大学研究紀要』第13号, 129-139.
 北條礼子 (2005).「公立小学校における「英語活動」に関する意識調査—千葉県沼南町（現柏市）の小学校6年生・中学1,2年生の保護者に対するアンケート調査をとおして—」『上越英語研究』6号, 31-43.
 松永道子・小松義隆・ルークロバージュ (2009).「コミュニケーション能力を高める幼児英語教育のこれから—認定こども園・保育園における英語教育の全国調査および先進園訪問を通して—」『長崎短期大学研究紀要』21号, 47-62.
 文部科学省 (2018).『幼稚園教育要領解説』フレーベル館.

